

本人ハ只経験ノ為メ雇ワレ其雇期限ヲ定メザレハ何時ニテモ解雇タルベシ

但解雇ノ節別段金<sup>四</sup>等ヲ給セザルベシ

第七条

本人ノ給料ハ職務ヲ執ル間一ヶ月銀貨四拾<sup>四</sup>ニシテ明治十五年三月二十二日ヨリ始ムベシ万一死スルトキハ本人ノ給料ハ其日ヨリ相渡サズ疾病ヲ得ハ初メノ三十日間ハ其給料ヲ受ケ該日数ノ後ハ再び職務ニ復スル迄給与セザル可シ

第八条

毎年<sup>(<sup>4</sup>円)</sup>庇服ハ二組ヲ給与ス

但上衣一ツ股引一足靴一足帽子一個ナリ且一年一度雨衣一枚ヲ給

スベシ

第九条

本人ハ横浜界町警察署内外国人巡查ヘ備ヘタル室内ニ住居スベシ該室内ニハ一ノ瓦斯燈ヲ給スベシ

第十条

此書面ニ神奈川県ヨリ給与スト明記セザル物品ハ何品タリトモ右「トーマス・ゼームス」自弁タルベシ

第十一条

本人巡查隊ヲ退キ或ハ解雇ノトキハ奉職中給セシ衣服ハ期限ノ長短ニヨリ神奈川県ニテ定ムル金高ヲ相納ムベシ

第十二条

職務規則ヲ違背シ或ハ怠惰過失アルトキハ其輕重ニ応ジテ給料ヲ速三ヶ月以内三分一減少シ或ハ其職務ヲ速ニ免スベシ  
凡ソ右等ノ事アルトキハ警部長其事実ヲ糺問シ県令ノ裁可ヲ経テ給料減少ノ高或ハ免職ヲ決定スベシ

横浜ニ於テ千八百八十二年三月二十二日

[Sgd] Tomas James

(欄外注記) 「英文ヲ以テ本書トス」明治十六年一月一日ヨリ給料銀

貨四十五<sup>四</sup>円ニ増額ス

〔臨時備ノ分〕

定約書

明治十六年二月十五日〔西曆一千八百八十三年二月十五日〕一方ニ於テハ日本政府ノ代理タル神奈川県令沖守固〔此後ハ単ニ前記ノ県令ト指称ス〕ト他ノ一方ニ於テハ当時東京府下ニ住スル英国陸軍工兵中佐「エッチ・エス・バルマル」ノ間ニ定約ヲ取結左ノ条々ヲ互ニ固守スベキコトヲ約ス即チ

第一条

前記ノ県令ハ是ニ依テ明治十六年二月十五日〔西曆一千八百八十三年二月十五日〕ヨリ始メ三ヶ月ノ期限内前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ヲ雇入ルコトヲ約シ又前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ該期限内横浜港ノ為メニ開設スル水道ノ築造法ニ係ハリ已ニ取調タル或ハ此後取調ル所ノ方法書仕様書費用概算書等ニ就テ之ヲ考査シ而シテ報告ヲナシ該工事ヲ計画シ及ヒ之ヲ実施スルコトヲ補助シ并ニ顧問土木師タルモノニテ通常遂行スル如キ該工事ニ係ル其他ノ職務ヲ執行スル為メ神奈川県付顧問土木師トシテ前記ノ政府ヘ奉仕スルコトヲ約ス

第二条

前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ此定約ニ依リ奉仕中ハ前記ノ県令或ハ其代理者若クハ時々前記ノ県令ニテ為メニ指名セル他ノ官吏ノ命令ヲ遵守シ其職務ニ従事スヘシ且又右ノ余ニ其奉仕スルコトノ為メニ適當ト認ムルコトアル時ハ前記ノ県令或ハ其代理者又ハ為メニ指名セラレシ他ノ官吏ニ向ツテ建議若クハ忠告ヲ為スベシ

第三条

前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ此定約ノ期限内ハ独リ前記ノ政府ニ奉仕スルヲ以テ任トシ直接或ハ間接ノ論ナク渾テ商業或ハ職

業ヲ営ミ又ハ之ニ干渉セザルベシ

第四条

若シ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ニテ疾病ニ罹リ或ハ不慮ノ危害ニ遭遇シ而シテ神奈川県庁医官ノ見込ニ於テ職務ニ従事スル能ハサルカ若クハ職務ニ従事スルヲ得ルモ其執行上大ニ差支ベクト認ルトキハ前記ノ県令ハ即時此定約ヲ廃止スルノ權ヲ有スルモノトス而シテ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ如此定約廃止ノ時日迄ノ給料ノ外他ニ給料或ハ報酬等一切要ムルノ權ナキモノトス

第五条

前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ノ給料ハ一ヶ月ニ付日本通用銀貨六百五十拾円トシ毎月々末之ヲ仕払フモノトス而シテ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ前記ノ給料ノ中ヲ以テ其旅費日用費及ヒ渾テ其他ノ費用ヲ仕払フヲ約諾スルニヨリ本定約ノ期限内及ヒ之ヲ廃止スル後タリトモ前記給料ノ外俸金或ハ其他何等ノ金額タリ共之ヲ要求スルノ權ナキモノトス

第六条

若シ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ニテ職務ヲ執行スルニ当リ怠慢ノ所行或ハ不行跡アルカ又ハ本定約書面ニ記載スル処ノ條款ニ違背シ若シクハ之ヲ執行スルコトヲ怠ル等ノ事アル時ハ前記県令ハ

即時此定約ヲ廃止シ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ヲ解雇スルノ權ヲ有スルモノトス而シテ前記ノ「エッチ・エス・バルマル」ハ如此解雇ノ時日迄ニ積ル処ノ給料ノ外ハ何等ノ給料若クハ報酬タリトモ之ヲ要求スルノ權ナキモノトス而シテ前記「エッチ・エス・バルマル」ハ此定約ハ勿論其他何等ノ約款ニ係リ前記ノ政府ニ対シ要求等一切為サルベシ

右証明ノ為双方茲ニ其名ヲ記シ其印ヲ捺ス

神奈川県令 沖 守固印

英国陸軍工兵中佐

[Sgd] H. S. Palmer Lieut. col. R. E.

(一)

第八号

神奈川県特別書類

平宰相成輔卿之墳趾五輪ノ塔之訳上申

右当郡十字四丁目百二十九番地所浄土宗潮音寺境内ニ前書ノ塔存在

セルヤ否ヤノ議御尋問ニ付左ニ

当町浄土宗報身寺住僧潮音寺兼務ニ付前条件及尋問候処本年住職

換且書類オモ無之更ニ不相分依テ全町平民湯山半兵衛本月八十二

年八月ナルモノ高年ニ付僧ト共ニ該宅ニ就キ尋問候所同人申聞候者五輪之塔ハ無之外ニ石ノ祠有之烏丸様ト云伝ヘ右ノ場所ニ踏込ム時ハ必瘴ヲ煩ヒ候迎立寄ル者無之其余ノ儀ハ居宅ヨリ少々引離居候ニ付不相分旨申立亦同所平民齋藤伊助七十九年八月ナル者該寺隣傍ニ付取札候所半兵衛前同様之申口ニシテ已ニ京都ヨリ公家衆御参拜有之候事ヲ相覚ヘ居リ亦二十年程以前其当住朱書之場所ヨリ墨書ノ場所ヘ引付ケ其他ノ墓所ヲモ不残取片付余ハ不残開拓セシ由其切不日住僧狂乱之躰ニテ何国ヘカ逃走居所不分明相成リタル由其節ヨリ追々衰頽後住無之現今無住引統居候旨申聞候ニ付依テ実地立合取調候所別紙<sup>(注)</sup>給<sup>(注)</sup>送<sup>(注)</sup>通<sup>(注)</sup>朱書ノ場所ヨリ墨書ノ場所ヘ引付有之紋所或ハ姓名ト彫刻ノ有無詳細取調候所不相見数年間経歴セシ故ト相見祠胴石體然尤笠石ハ苔茂セルノミ右御尋ニ付申上候該祠判然セル上ハ旧位地ヘ御移祭相成候様仕度候尤一応御検査奉願度候也

明治十六年六月

右町戸町

吉田 元 延

足柄下郡長 関 重磨殿

(注) 別図省略。

## 水島段右衛門履歴之概略

中山 信明

武州久良岐郡

泥亀新田十一世

水島亀代司祖父

水島 段右衛門

明治十六年六月七十四年九月

翁俳諧ヲ好ミ亀巢ト号ス文化五辰年十月十五日之曉天ニ生ル維時祖先泥亀以來世々丹精ヲ重ネ泥亀新田〔祖先泥亀ハ徳川幕府ノ侍医典薬頭法眼道仙之長子名福字祐伯号泥亀江都神田ニ聖堂ヲ創設ノ際徴サレテ儒官トナリ藤堂酒井之教諸侯ニ師タリ寛文年間隠居シテ家ヲ弟道仙ニ譲リ武州金沢ノ地ニ移リ地ヲ撰ヒ字平潟ニ居ヲ占ム此ニ於テ老後何ノ功ナキヲ以テ聊カ公私ノ益ヲ謀リ新田開發ノ事業ヲ起シ字平潟走川之ニケ所ヲ開キ塩浜沓ヶ歩余田圃高十五石余且三浦郡ニ於テ船越新田高三十石余ヲ得后六代段右衛門ノ世ニ至リ金沢入江ノ地ヲ開墾シ入江新田高式百四石余ヲ得維新后併テ泥亀新田ト合称ス〕元禄十六年之地震ニ堤破壊潮押入荒蕪ノ地トナル爰ニ於テ一村相統始テ困難ヲ兆ス

爾來世々祖先ノ遺志ヲ継キ第六世代右衛門ノ代ニ至リ奮然力ヲ開墾ニ尽シ數年空シク亡所タリシ字平潟走川ノニケ所〔コレヲ古新田ト

称ス〕ヲ起返シ併テ金沢入江新田式百石余ヲ開發ス于時天明六年ナリ斯ク成功スルヤ否同年七月関東大洪水之災ヲ被リ數年ノ丹精一朝水泡ニ帰セリ然レ共段右衛門〔六世ヲ云フ〕剛毅ニシテ敢テ屈セス尚モ資財ヲ抛テ思ヲ凝シ再ヒ回復ヲ謀ルモ大荒ノ后事容易ニナラス在再全八年十一月ニ至リ官其功ノ成ス能ハサルヲ視此地ヲ官没セントス茲ニ於テ段右衛門必至困難久保田佐渡守役場へ駈ケ込哀訴僅カニ維持スルヲ得夫ヨリ一層財産ヲ傾ケ他借ヲナシ開墾ノ功稍成ントシテ再ヒ寛政三亥年八月九月兩度ノ津波前代未聞ノ高波押入り新田田潮除堤等悉ク流失田圃ハ麥シテ昔時ノ海トナリ今ハ如何トモ再葦ノ策ナク七世代右衛門ヨリ八世嘉十郎〔嘉十郎ハ亀巢ノ父ナリ〕ト世々粉骨碎身新田再興ヲ謀ルモ資力尽キ加之新田皆亡所ノ為メ粒米ノ得ルナキ幾ト四十余年段右衛門斯ル〔亀巢ヲ云フ〕艱難ノ中ニ成長年甫メテ十七名主見習トナリ剛毅ノ志ヲ起シ父ヲ補ケ新田開墾ノ事ニ寢食ヲ忘レ或時ハ単身船ヲ操リ東都ニ新ヲ嚮キ歸キ購ヒ油ヲメ又ハ家敷構内ノ寸地モ余サス野菜ヲ殖へ批杷ノ類ヲ仕立之レヲ近隣ニ担売シ僅カニ一家ノ飢渴ヲ凌キ氣衰へ力尽キントスルモノ數回ナルモ毫モ不幸杯ト歎声ヲ發セシ事ナク艱難ニ逼ル毎ニ却テ不撓ノ精神ヲ感奮シ益々新田回復ノ事ニ思ヲ焦シ自ラ土ヲ担ヒ堤ヲ築キ勤苦一日ノ如キモノ二十余年父既ニ老イ家計益々困難ナルニ荒所起返セ

スンハ官没セントノ致命数度数代ノ勞苦空シク消滅ニ帰セントスル  
 事数回其時ニ讒カニ猶予ヲ請ヒ漸ク天保十四年ニ至リ金子少々才覚  
 成シヲ以テ翌年領主川越家役場ニ古形開發ヲ出願セシ処豈凶シ四隣  
 村々ヨリ紅葉山領坂本村ヲ煽動〔紅葉山領ハ當時頗ル權威ヲ奮シト  
 云〕故障ヲ起サシメ開墾ニ着手スルヲ得サルヲ以テ止ムヲ得ス是非  
 江都之役所ニ訴ヘ争論幾ト二ケ年空シク旅寓ニ開墾ノ資ヲ費シ漸  
 ク彼レノ不正ヲ破リ工業ニ着手セントセシニ再ヒ隣村三分村瀬戸明  
 神々主千葉某ヨリ字姫子島ト称スル新田咽喉ノ地ニ係リ故障ヲ起サ  
 レ最早資力乏ク且時機ノ失フ可ラサルニ迫リ之ト是非ヲ争フノ違ナ  
 ク憤リヲ忍ヒ借地ノ証ヲ与ヘ之カ故障ヲ解キ愈荒地起返ニ着手爾来  
 工業ニ従事自ラ人夫ニ先チ土ヲ担イ石ヲ運ヒ櫛風浴雨就中咽喉ノ要  
 所ヘ門樋ヲ築造スル時ハ三伏ノ夏日炎々燬ルヲ如ク殆ト身ヲ容ルル  
 ニ処ナキモ厭ハス破堤野徑ヲ奔走シ進潮退汐ノ間ヲ斗リ種々ニ工風  
 ヲ凝シ石柱ヲ建ントスルモ水底深クシテ泥土ノ間ニ岩石凸凹スルア  
 リ建トシテハ顛倒シ土俵ヲ以テ拒ントスレハ潮水激流ノ為メニ押流  
 サレ如斯失敗スル事幾回ナルヲ知ラス近隣ノ者之ヲ望見皆其徒勞ニ  
 属スルヲ云イ嘲リ笑然レトモ少モ屈撓セス毎夜眠リヲ忘レ工風ヲ凝  
 ラシ遂ニ門樋ヲ設ケ咽喉ノ地ヲ修シ艱勉従事開墾ノ功ヲ成シ続テ嘉  
 永四亥年ニ至リ祖先ノ遺志ニ依リ字平瀨ノ海浜ヲ区画シ新塩浜ヲ數

町歩開キ大イニ製塩ニ力ヲ尽シ本年此地ノ製塩ヲ水産博覧會ニ出シ  
 左ノ賞状ヲ得タリ

品位佳良ニシテ需用ニ適ス加之常ニ力ヲ改良ニ用ヒ価ヲ廉ニセン  
 事ヲ謀ル其功勞嘉賞スヘシ

又泥龜新田起返シ功成ルノ後四隣村々ノ潮除堤又ハ荒沼等自然ニ良  
 田ト変スルニ至リ且新田塩浜等漸々成功為ニ世ニ失ヒシ船越新田等  
 ノ地モ追々購ヒ戻シ祖先ノ業ヲ完フスルト雖モ敢テ利益ヲ私ニセス  
 良ク小民ヲ憐ミ聊カノ徳米ニテ小作ニ預ケ或ハ貧民ニ米金ヲ惠与シ  
 又ハ学校警察署新築等公益ノ事業ニ金ヲ出ス事ヲ惜マス既ニ銀盃ヲ  
 賜ル兩度ニ及ヘリ

又父ノ志ヲ継キ前陳ノ如キ艱難ノ中ニ僅カノ元金ヲ以テ年々利子ヲ  
 積ミ洲崎村龍華寺ヲ再興シ本堂ヲ建テ鐘樓堂ヲ築キ金匱ヲ寄付ス如  
 斯事富裕ノ人ニ於テハ敢テ珍シカラストスルモ此翁ノ來歴ヨリ云ハ  
 奇特ト賞スヘキ乎且此翁天資穎敏人ヲ使用スルノ能アルヲ以テ新田  
 起返成功ノ頃ヨリ時ノ領主ニ用ヒラレ最初川越家領分ノ節ハ水主差  
 配役被申付式人扶持ヲ給与セラレ其後小役人ニ登リ五人扶持ニ加増  
 シ続テ久良岐鎌倉三浦三郡ノ内五十ヶ村ノ大取締トナリ大役人ニ昇  
 進十人扶持ニ加増后百石ヲ賜フ夫ヨリ細川家ノ預リ所トナリ大取締  
 元ノ如ク改メテ五人扶持ヲ給与セラレ其後堀田家ノ預リトナリ格式

等前々ノ通被申付候由右者此翁ト共ニ成育セシ現存ノ老人ヨリ平素承リ候事ト翁カ昔話ト種々ノ古書類ニ拠リ彼是参考取調候処概略ノ履歴如斯ニ御座候

且此翁今年齡七十有五ニシテ鬢鑠歩行ニ杖ヲ用ヒス常ニ曉天ニ起テ鎮守ノ廟ヲ拜シ祖先ニ仕エ慰勸生者ニ仕フルカ如ク又常ニ幼孫ヲ撫育シ内ハ以テ家事ヲ撰シ外ハ戸長ノ事務ヲ担任シテ一村ノ公事ヲ理スル事スル重齡ニ似ス百折不撓ノ精神今尚少シモ衰ヘサルヲ覺ユ  
迂生故有テ此翁ト交ル茲ニ年アリ子孫翁ノ為又子々孫々ノ為翁カ苦辛以テ聊カ国家ノ公益ヲ起シ自家ノ幸福ヲ招キシ事業ヲ石ニ刻シ之レヲ座中ニ建テ子々孫々常ニ之ヲ見テ怠惰ノ心ヲ戒メ勤儉公義以テ世々良民タラン事ヲ希望仕候間何卒拙キ書取り御判読石石碑ニ刻スヘキ御撰文奉願上候頓首百拝

明治十六年六月十二日

中山 信明 再拜

巖谷 修椽 閣下

御参考

居屋敷庭中牡丹凡式百株余アリ是ハ泥龜ノ長男重郎左衛門ナル者酒井雅楽頭領主ノ頃其近臣トナリシヲ以候カ三浦郡上知ノ際平素愛セラレシ処ノ牡丹ヲ讓ラレシモノト云今尚繁殖致居候

但讓請后年曆凡二百余年

同松樹式尺廻リヨリ七尺廻リニ至ル凡百本余祖先泥龜ノ此地ニ居ヲ占シ節植付シモノト云フ

但年曆凡式百三十年

(静岡県立中央図書館)

庶第七百八十五号

(三)

本年四月本県乙第七十五号ヲ以テ元老院議官関口隆吉地方巡察被仰付候旨達相成居候処本月二日着県四日ヨリ久良岐郡ヲ始メ順次各郡巡視ノ筈ニ付諸事無差支様可取計旨達有之不日本郡へ到着相成沿路各戸長役場小学校へハ巡視相成候趣ニ付都テ不都合無之様可被致為念此段通牒及候他

明治十六年六月廿八日

西多摩郡役所

戸長役場中

庶第一千〇四号

関口元老院議官地方巡察之義ニ付テハ本年本県乙第七十五号ヲ以テ御達ノ次第モ有之去六月二日着県四日ヨリ久良岐郡ヲ始メトシ巡回

ノ旨庶第七百八十五号ヲ以テ通牒及候処右ハ同郡ヨリ海岸各郡巡視  
静岡県へ被相越候趣ノ処尚本月九日頃足柄下郡箱根駅へ着夫ヨリ山  
手寄各郡巡視スヘキ旨通報有之趣庶務課長ヨリ通知有之就テハ不日  
本郡へ巡回可相成候条都テ不都合無之様可被致此段通示及候也

明治十六年八月十一日

西多摩郡役所

戸長役場中

〔西多摩郡役所御達級〕(明治一六一一七年) 神奈川県立図書館蔵

### 104 騒擾事件と行政取締報告書(二一八)

(一)

○同年九月二日午後第貳時武蔵国橘樹郡末長村人民三拾余名処々ニ  
集合シ頗ル不穩ノ色アリ因テ同郡溝口警察分署ヨリ巡查数名該処  
ニ出張シ懇々説諭シ漸ク鎮靜シ帰ス其原由ハ隣村久本村ニ於テ虎  
列刺病死人ヲ火葬セントスルヲ厭忌セシニ依ルト云フ

(注) 明治十五年。

(二)

○同月廿九日同国大住郡堀山下村人民数名將ニ暴挙ニ及ハントス因  
テ同処警察署〔詰〕岡田警部補該処ニ出張シ之ニ説諭ス其頗末ハ

左ノ同官ノ上申書ノ如シ

明治十六年四月廿九日相模国大住郡堀山下村人民六拾名ノ総代  
トシテ同村平民南条繁次郎外五名ノモノ同志者数名ヲ随ヒ同村豪  
農山口太平ノ家宅へ襲来シ山林反別八反余ノ立木ヲ受取ラント強  
迫ニ及ヒ而シテ南条ハ自身ノ膝ヲ斫リ又同行者ハ山口ノ為メ負傷  
セシ様無根ノ難事ヲ申掛ケ既ニ暴挙ニ及ハントスルノ勢アリ依テ  
即時同処ニ出張シ種々懇諭ヲ加ヘ漸ク一時ハ鎮定ニ帰スルモ尚処  
々ニ集合シ再挙ノ色アルヲ以テ先ツ同村戸長并議員等ヲ召喚シ其  
原因ヲ取料スニ先年山口太平ノ買請タル官林反別十六町三反余ハ  
固ト同村人民六拾名ノ買請ヘキ筈〔然ル〕ニ之ヲ山口老人ニテ  
買請タルハ甚タ不当ノ処為ナリト終ニ該人民等相謀リ山口ヲ被告  
トシ之ヲ法廷ニ告訴シ又統テ県庁ニ請願シタルニ孰レモ採用セラ  
レズ因テ客年一月中彼ノ六拾名ノモノ竹槍等ノ用意ヲナシ最早  
大事ニ至ラントスルノ模様ニ付其節警吏出張説諭之上山口太平ノ  
買請タル山林反別拾六丁三反余ノ内五丁五反ヲ該人民等ノ共有物  
トナシ無代価ニテ譲リ渡スコトニ決シ其后チ又同村会ニ於テ右共  
有物五丁五反ノ立木ヲ同人民へ金四百余円ニ売渡スコトニ是又決  
定シ而シテ人民等ハ之ヲ配分シテ各伐木地面ヲ測量シタルニ豈計  
右五丁五反ノ内殆ント八反有余ノ不足アルヲ発見セシヨリ右ノ代

佃ヲ請求セント終ニ今回六拾名ノモノ山口太平ニ強迫シタルモノナリト云フ因テ暴徒并関係人等ヲ召集シ懇切説諭ヲ加ヘ漸ク六拾名ニ対シ山口太平ヨリ金六拾名円ノ償金ヲ出スヘキニ決シ事始メテ平和ニ帰スルニ至リタリ

(注) 明治十六年四月。本文中「」内は『神奈川県史料』第五巻の校訂をそのまま採用した。

## (三)

○同月廿六日同国南多摩郡木曾根岸両村人民又將ニ暴動ニ及ハントス因テ同処警察署長原田警部該処ニ出張シ懇篤説諭ヲ加ヘ事漸ク平穩ニ歸ス其顛末ハ則チ左ノ如シ

抑該原因ハ武蔵国南多摩郡木曾根岸淵ノ辺三ヶ村ノ共有地ナル秣場七拾六町九反ノ内木曾根岸両村ニ跨ル四拾町歩ノ地ヲ去ル明治十二年地租改正ノトキ木曾村ノ豪農三沢忠兵衛ナルモノ、之ヲ買取りテ其内拾町歩ヲ淵ノ辺村ヘ売却シ残ル三拾町歩ヲ自分開墾セシヨリ起リシコトニテ最初村民等ハ此地処ハ何人「ノ」処有ナルモ永代小作地トナル可シト思ヒシニ豈計忠兵衛ハ此地ヲ買入ル、ヤ否ヤ大勢ノ人夫ヲ傭入レ開墾ヲ初メシヨリ村民等ハ大ニ驚キ忠兵衛ノ家ニ詰掛ケ兎ニ角此地処ヲ小作地トセンコトヲ請求シタレ

トモ忠兵衛ハ一向聞入レス我地処ヲ我開クニ手作トセンモ又小作トセンモ勝手ナリ兄等カ彼レ此レ云フ可キ事ニ非スト云フ理ノ当然ニ村民モ詮方ナク一時ハ引取りシカ其ヨリ木曾根岸両村ノ者共ハ事ニ托シテハ処々ニ集会ヲナシ何トナク村内穩カナラス因テ警吏ノ説諭モ度々ニ及ヒタルトモ遂ニ事ノ纏マラスシテ昨十五年十一月中該両村人民ヨリ地主忠兵衛ヲ被告トシ横浜裁判所ヘ告訴セシニ何分忠兵衛ハ当然ノ手續キテ買請「タ」ル地処ヲ自分ノ力ニテ開墾セシコトナレハ同衙ニ於テモ不当ト認ムヘキ所ナシトテ遂ニ本年五月三日訴状ハ却下セラレタリ於是該両村人民ハ今ハ詮方ニ果タリ去逆此儘止ムヘキニ非ストテ其夜ヨリ昼夜ノ別ナク処々ニ集会「シ」遂ニ同月七日ノ集会ニテ該両村ノ人民共一致ナ「シ」忒百余名ノモノ県庁并裁判処等ヘ歎願セント同国橋樹郡芝生村ニ押出セリ然レトモ八王子警察署長原田警部ノ説諭ニヨリ幸ニ事ナク神奈川駅ヨリ引返シ而シテ該両村ヨリ総代ヲ撰ヒ地処取戻ノ詞訟ヲ起シタリ然ルニ彼ノ忠兵衛ハ此裁判ノ起リシニモ関セス東京ヨリ開墾器械ヲ取寄セ益々盛大ニ論地ヲ拓キ又追々該地ヘ人家ヲ建築シ今ハ始ト一新田ノ状ヲナシタレハ村民等ハ見ルニ堪ヘス愈々処々ニ集会シ此上ハ総代ヲモ打棄テ裁判ノ落着ヲモ待トセス腕力ニテ其鬱憤ヲ晴サント無法ニモ決心シテ遂ニ本月廿六



日ノ未明木曾村ノ人民等忠兵衛カ開墾地ニ押寄せ新築ノ家屋ヲ打毀チ思フ儘ニ振舞テ退去シタリト此事忠兵衛カ訴ニ依リテ八王子警察署ヨリ警吏数名直ニ該処ニ出張シテ乱暴ノ証跡アル村民等ヲ取押ヘ又其後チ連累ノ自首スル者等アリテ一時ハ署中ヘ留置セシ者六拾名ノ多キニ及ヒシカ追々取糾ノ末右ノ内拾四名ヲ検事局ヘ廻シ余ハ皆ナ居村ヘ差返シタリ然レトモ騒動ハ益々甚シク事變ノアランモ測リ難キ体ナレハ警吏ニ於テモ猶百方説諭ニ尽力スト雖トモ中々鎮静ノ模様ナク因テ到底此ノ騒動ノ原因タル秣場ヨリ処分スルニ非サレハ良好ノ結果ヲ得ヘカラストテ原田警部自カラ同村ニ出張シ該兩村ノ人民一同ト彼ノ三沢忠兵衛トヲ一場ニ招キ懇篤説諭大ニ尽力セシニヨリ漸ク互ニ和〔睦〕ヲ承服スルノ色ヲ表シタリ又此件ニ付仲裁ニ尽力セシ同郡長原豊稜并同郡鶴間村戸長細野正重同山崎村戸長高梨才助等ノ諸氏モ猶双方ニ奔走周旋シ平和ノ事ヲ取扱シニヨリ遂ニ双方悔悟ノ念ヲ生シ全ク心解ケ三沢忠兵衛ノ開墾地三拾町〔余〕ヲ目今ノ価格ニテ木曾根岸兩村ノ人民ヘ売却スル事ニ決シ同月十五日其取引モ済テ數年来ノ葛藤爰ニ始メテ氷解セリト云フ

(注) 明治十六年十一月。

○五月(注一)中愛甲郡下伊知村岩崎久右衛門中依知村佐藤市兵衛外三四名ハ巨魁トナリ負債者ヲ煽動シ債主ヘ強迫スルノ聞ヘアリ厚木警察分署ニ於テ巨魁者ヲ召喚シ説諭ノ上連判狀其他ノ書類ヲ取り上ケタリ大住郡笠久保村添田団右衛門外九名同ク負債一件ニテ負債者百余名ヲ同郡善波峠又ハ弘法山ニ聚集シ頗ル穩カナラス直ニ巡查ヲ出張セシメ鎮撫解散セシメ且巨魁等ヲ曾屋分署ニ召集審案ノ上小田原警察署ニ送致セリ此際大住郡愛甲郡各村負債者沈静ナラス処々ニ集会スルノミナラス大住郡尾尻村共伸社々長梅原修平居宅ヘ左ノ張紙ヲナシタルモノアリ

願ノ筋聞届呉レ候ハスバ何程堅固防禦ヲナスト雖トモ屹度焼討候間其段承諾セヨ

津、かな起命ハきのふ共伸社あすハ露木の友となる身ぞ

此張紙アルヤ梅原修平ハ勿論家族雇人ニ至ルマテ狼狽一方ナラス加之近隣ニ於テハ専ラ彼ノ露木ノ評ヲナシ且ツ放火等ノ恐れアルヲ以テ人心恟々タリ巡查ヲ処々ニ派出シ説諭ヲナスト雖トモ恐怖甚シキヲ以テ容易ニ安心セス故ニ巡查ヲシテ毎戸説諭ヲ加ヘシメ漸ク保護ノ篤キヲ感シ安堵ヲ覺ヘタリ其他近村中密ニ暴行ヲ企ルモノアルノ風評甚シキヲ以テ嚴重探知巨魁者岩崎久右衛門佐藤市

兵衛外四名ヲ捕獲シ小田原警察署ニ送致セリ爾後共伸社其他ニ於テハ利子ヲ引下ケ或ハ年賦ヲ承諾改約ヲナシタルヲ以テ先ツ沈靜ニ帰シタリ

(注一) 明治十七年。(注二) 下依知村。

(五)

○六月十一日<sup>(注一)</sup>大住郡馬入村戸長ニ宛テ彼ノ江陽銀行社長杉山某ノ宅

ニ放火スヘシトノ投書アリ為メニ同家ハ勿論近隣ノ村民恐怖一方ナラス平塚警察分署長巡查毛利七郎并同村戸長等出張夫々沈靜方取計ヒ且負債一件双方示談方ヲ示シタリ然ルニ爾後尚又負債一件ニテ人民処々ニ集合不穩ノ景況アルヲ以テ藤沢警察署ヨリ警部補伏屋為徳出張萩岡村戸長等ト共ニ同所戸長役場ニ於テ債主負債主及ヒ仲裁人ヲ呼出シ篤ク説諭スルモ容易ニ決セス数時間ヲ費ヤシ漸ク和談ニ至リタリ其要領概略左ノ如シ

一 公証面ハ明治十七年六月ヨリ向三ヶ年ニシテ宅割式分ノ利ヲ付スル事

一 仲裁人債主負債主ノ和解約条証ハ証書面三ヶ年ニ至リ更ニ三ヶ年ノ延期ヲ許シ此金額ニ限り八分ノ利ヲ付スル事

一 金額ハ大凡五千五百円内外ニシテ負債主人名ハ九十五名程

但シ實際調査ノ積リ

一 元利払込ハ壹ヶ年二回ノ事

(注一) 明治十七年。(注二) 高座郡萩園村か。

(六)

○七月三十一日<sup>(注一)</sup>高座郡上鶴間村字八口神社内ニ村民大凡三百名計リ

集合近隣頗ル騒擾神奈川警察署詰警部補代理巡查小田切忠良外巡查二名并ニ原町田警察分署長巡查佐藤甘令等出張説諭解散セシメタリ右ハ原町田町ノ武相銀行并ニ奈良村ノ盛運社ヨリ負債シタル者其ノ返済ニ苦ミ集合協議ノ為メナリ

(注) 明治十七年。

(七)

○八王子駅近村人民騒擾事件同所警察署長警部原田東馬ヨリ上申書如左

八王子警察署部内人民集合ノ景状

明治十七年四月以来相模国大住洵綾足柄ノ各郡ニ於テ人民嘯集ノ兆候ヲ顕シ六月以来高座郡各村ニ蔓延シ延テ津久井南多摩ノ両郡ニ波及シ北西両多摩郡ニ伝播シ八月初旬ヨリ八王子警察署部内ニ

於テ各地人民集合ノ景状及ヒ其処分顛末如左

一 八月三日武相国境南多摩郡相原村字御殿峠ニ於テ南多摩郡高ケ坂村外数ケ村ノ人民等負債償却ノ方法ヲ議スル為メ百名内外集合スルノ報ヲ聞キ警察官出張セシ処彼等衆説区々ニシテ日没前各自ラ平穩ニ解散シタルヲ以テ集合ノ形跡モコレナシ

一 八月七日尚御殿峠ニ於テ近傍ノ人民集合セルヲ以テ八王子警察署長原田警部現場ニ出張セシ処集合ノ人民十六名ニシテ尚追々来集スルノ場合ニ付八王子警察署ヘ引致ノ上取調フル処全ク負債償却ノ方法ヲ議シテ債主ヘ示談ヲ遂ケントスルノ口実ナルヲ以テ充分説諭ヲ加ヘ後來ヲ戒メ帰村セシメタリ  
其人員左ノ如シ

高座郡小山村一人	同	郡鶴間村一人
南多摩郡木曾村二人	同	鑓水村一人
同 相原村一人	同	南大沢村一人
同 下一分方村一人	同	宇津貫村二人
同 根岸村一人	同	小比企村一人
同 高ケ坂村一人	同	松木村一人
同 鶴間村一人	同	小川村一人
合計 十四ケ村 十六名		

一 八月十日高座郡上下鶴間村外数ケ村人民及ヒ一度鎮定セシ南

多摩郡相原村外数村人民再挙午後八時頃ヨリ亦候御殿峠ニ集合シ午後第十一時頃ハ凡ソ五六百人ノ多衆トナル警察署長原田警部即時現場ニ臨ミ集合ノ理由ヲ糾スニ負債償却ノ整ハサルヲ以テ総員ヲ以テ債主ニ請ヒ延期宥恕ヲ求ムルノ旨意ナル旨申唱フルヲ以テ其多衆ノ勢力ヲ以テ暴威ヲ示シ目的ヲ達セントスルノ不当ナルヲ充分説諭責誠ヲ加ヘ各其場解散ヲ命シ天明ノ頃該場ハ尽ク退散シ南多摩郡相原村ニ至ル処左ノ人員二百十四人ハ疲労空腹等ヲ口実トシテ駐足帰村致サ、ルヲ以テ同日午後四時頃土師警部松野警部補巡查数名之レヲ八王子警察署ニ引致シ所轄人民ハ署長原田警部之レニ充分責誠説諭ヲ加ヘ帰村セシメ其ノ藤沢警察署所轄高座郡鶴間村外数村人民九十一人ハ同署ヘ引渡シ同署ニ於テ責誠帰村セシメタリ  
其村数人員左ノ如シ

南多摩郡根岸村五人	同	郡小比企村二人
同 高ケ坂村十九人	同	宇津貫村九人
同 木曾村十六人	同	片倉村二人
同 相原村三人	同	西長沼村二人
同 金森村十二人	同	打越村一人

同 小山村 九人 同 八王子村 一人  
 同 南大沢村十九人 同 松木村 九人  
 同 鶴間 村十二人  
 都筑郡 恩田 村 七人  
 高座郡 上鶴間村六十七人 同 鶴ノ森村 八人  
 同 淵ノ辺村 七人 同 小山村 七人  
 同 下鶴間村 五人  
 合計 二十二ヶ村 引致セシ人員二百二十四人  
 一 八月十四日津久井郡寸沢嵐村外七ヶ村人民凡三百余名各負債償却ノ事柄ニ付御殿峠ニ集ル各村ノ人民ト合併セントシテ武相国境七国峠及ヒ高尾山ニ出没シ御殿峠ノ集民既ニ全ク解散セシ状ヲ確知シテ方向ヲ転シ其内百名計リ同十五日同人民津久井郡役所ニ歎願アルト唱へ出頭郡吏及ヒ中野分署巡查三原経孝等之ヲ説諭セシ処一旦同郡中沢村普内寺ニ退キ同十六日ニ至リマタ転シテ南多摩郡小比企村ノ原野ニ於テ再ヒ三百余人集合セリ依テ八王子警察署ヨリ浜口警部補巡查数人ヲ率ヒ現場へ臨ミ集合ノ理由ヲ尋問スルニ前同断ナル負債償却ノ示談ナル旨答弁セリ依テ敵誠説諭ヲ加へ各解散帰村セシメタリ  
 其人員左ノ如シ

津久井郡 三井村三十一人 同 郡 牧野村八拾五人  
 同 中沢 村二十人 同 寸沢嵐村七十人  
 同 若柳村二十五人 同 青山 村十五人  
 同 三ヶ木村六十五人 同 又野 村十五人  
 南多摩郡 鎌水 村十二人  
 合計九ヶ村 三百三十八人  
 一 八月十八日南多摩郡西中野村字鷲山へ同郡宇津木村外十七ヶ村人民凡六十名負債償却示談ノ口実ヲ唱へ集合セリ即時警察署ヨリ吉沢警部補出張直ニ之ヲ解散セシム  
 一 八月廿日西多摩郡檜原村字千束住久保田清右衛門宅へ負債一件ニ付同村人民二十七人集合五日市分署長巡查山本一智出張説諭解散セシム  
 一 八月廿一日西多摩郡藤橋村広井喜一宅へ負債一件ニ付同村民十二名集合青梅分署長巡查野堂次郎出張説諭シテ解散セシメタリ  
 一 同日西多摩郡石畑村字六道ノ山中へ武蔵国入間郡高根村人民五十名集合函根ヶ崎分署長巡查萩原益三出張説諭解散セシメタリ  
 一 八月廿三日西多摩郡平井村字谷入住山野丹二郎宅へ負債一件

ニ付左ノ人員集合五日市分署長巡查山本一智出張解散セシメタ  
リ

西多摩郡 草花村 十九人 同 郡 菅生 村 三人

同 平井村二十四人

合計 三ヶ村 五十六人

一 八月廿五日高座郡橋本村へ左ノ人員集合松野警部補出張尋問  
スルニ負債償却ノ件ナルヲ以テ一先引致シ取調フル処背法ノ廉  
ヲ見ス敵ニ後來ヲ戒メ解放帰村セシメタリ

其人員左ノ如シ

高座郡 上鶴間村一人 同 郡 鷓ノ森村一人

同 淵ノ辺村一人 同 小山村二人

南多摩郡 小比企村一人 同 宇津貫村一人

同 打越村一人 同 西長沼村一人

同 片倉村一人 同 松木村二人

同 根岸村二人 同 成瀬村一人

同 金森村一人 同 木曾村二人

同 高ヶ坂村一人 同 南大沢村一人

同 鶴間村一人

都筑郡 恩田村一人 鎌倉郡 瀬谷村一人

合計 十九ヶ村 二十三人

一 八月二十六日津久井郡三井寺ニ於テ左ノ人員集合松野警部補  
出張理由ヲ問フニ負債償却ノ方法ヲ談スル為メ集合セル旨申立  
ルニ付解散ヲ命シタル処債主へ掛合方仲裁人アリテ周旋中ニ付  
其返答ノアルマテハ決シテ解散セスト抗弁シ警察官ノ命令ニ応  
セス依テ引致取調ノ上検事へ送付セリ

其人員左ノ如シ

津久井郡 根岸村一人<sup>(注一)</sup>

同 青山村二人 同 郡 小淵村一人

同 三鍵村二人<sup>(注二)</sup> 同 中沢村一人

同 名倉村一人 同 青野原村一人

同 三井村一人 同 牧野村一人

同 青根村一人 同 寸沢嵐村一人

合計 十ヶ村 十三人

以上各地ニ集散シ夫々解散ヲ執行シ又ハ引致取調ヲ遂ケ各地  
一旦鎮定ニ到リシ処九月一日ニ至リ南多摩郡下川口村塩野倉  
之助方ニ於テ又候近傍人民ヲ嘯集スル為メ事務所ヲ設置シ資  
金ヲ募集スルノ聞アルヲ以テ吉沢警部補巡查数名ヲ率ヒ同人  
家屋ニ臨検シタル処果シテ隠謀ノ盟約書其他嘯集ニ関スル書

類ヲ發願セリ依テ之ヲ押収シ連犯人町田克敬ヲ引致シ八王子警察署へ留置治罪ノ手續ヲ履行セリ

一 九月五日南多摩郡下川口村塩野倉之助ナル者自村外近傍三十二ヶ村ノ人民二百余名ヲ囂集シ各蓑笠ヲ着シ当八王子警察署ニ出頭シ曩キニ押収シタル帳簿并ニ町田克敬ノ差下ケヲ要求スルト唱へ署外ニ喧鬧シ続々署内ニ鞋足ノ儘押入ルノ形跡アリ警察署長原田警部ハ之レニ対シ理由ヲ糾ス処何レモ負債弁償延期請求ノ為メナル旨異口同音ニ申唱フルヲ以テ官署ニ於テ聞入ルヘキコトニ非ル旨ヲ諭シ其凶暴ノ行為ヲ嚴責シ速ニ解散スヘキ旨命令スルコト數回ニ及フト雖トモ其命令ニ応セサルノミナラス益々喧噪シテ署内ニ入り来ルヲ以テ其二百十名ヲ逮捕シ巡查數名ヲシテ署内ニ留置ノ処分ヲナサシメタリ

其人員左ノ如シ

南多摩郡	上川口村十五人	同	郡山	入村二十三人
同	宮下村 五人	同	二分方村	八人
同	西中野村 一人	同	小津村	一人
同	宇津木村 五人	同	石川村	十四人
同	上恩方村 六人	同	下恩方村	二人
同	一分方村 三人	同	中丹木村	二人

同	横山村	四人	同	戸吹村	四人
同	八日市村	四人	同	北大谷村	四人
同	下川口村	一人	同	粟ノ須村	十一人
同	大楽寺村	一人	同	左入村	一人
同	北平村	一人	同	犬目村	六人
同	北多摩郡	上連雀村 七人	同	拜島村	一人
同	境	村 一人	同	下連雀村	四人
同	西多摩郡	大久野村 七人	同	小川村	三人
同	菅生村	二人	同	引田村	五人
同	平井村	四十二人	同	野辺村	四人
同	草花村	十二人			
合計	三十三ヶ村	人員二百十人			

爾後其者共ヲ取調フル処全ク塩野倉之助小池吉教等ノ教唆ニヨリ多衆囂集シテ官署へ喧鬧シタル事跡顕然セルヲ以テ治罪ノ手續了ノ上起訴ノ処分ヲ決行セリ

一 九月六日南多摩郡西中野村小池吉教宅ニ於テ前日官署ニ喧鬧ヲナセシ二百十名ノ余徒百余名前日ヨリ徹夜集合セルヲ以テ吉沢警部補巡查數名ヲ率ヒ出張セル処彼等警察官ノ出向ヲ遠見シ四方ニ散乱山中ニ逃走シタリ故ニ其村人名共ニ明瞭セス

一 九月六日南多摩郡南方ノ各村及ヒ高座郡津久井郡各村ノ人民共前日北方下川口村人民数百人八王子へ押し寄せ警察署ニテ喧鬧シ尚ホ残徒中野村辺ニ屯集シテ追々八王子ニ押し来ラントスルノ景状ヲ伝通シ同日午後八時ヨリ夜ヲ徹シ南多摩郡鎌水村鎌水峠ト御殿峠ノ中間ナル字檜窪官林ニ集マリ八王子ニ押寄せ来ル北方各村ノ人民ト相会セント謀リ午後九時頃追々御殿峠及ヒ檜窪ニ集合セリ其際檜窪ニ集マル者凡百名以上ニシテ御殿峠ニモ数十名来集セリ然ルニ翌七日天明ノ頃ニ至リ各々自ラ静穩ニ帰村セシヲ以テ七日早朝ヨリ警部巡查数名集合人民処分ノ為メ巡邏セシ処各村共前夜集合ノ末早朝帰村セシ景跡ヲ見ルノミ一モ集合ノ場所無之蓋シ前夜御殿峠及ヒ檜窪へ追々集合スルノ央午後一時横浜署ヨリ警部三名巡查三十五名監守十名数台ノ馬車ヲ以テ八王子ニ来着セルヲ集合人民ニ通シ憲兵数百人繰込ミタル旨申唱へ集民自ラ畏縮解散帰村セシ者ナリ

一 九月七日南多摩郡滝山村正林寺ニ近傍ノ人民集合スル旨百名余八王子警察署ヨリ巡查之レニ出張セルヲ遠見シ四方ニ散乱逃走セリ故ニ其村人名共ニ明瞭致サ、ルナリ

一 九月八日子テ債主ト負債者トノ間ニ立入り仲裁ヲ行フ者ヨリ債主ノ模様ヲ負債者へ確答スルノ当日ナルヲ以テ負債者ハ村々

ヨリ御殿峠ニ集合シテ其報ヲ待ツノ企アリ藤沢警察署ヨリハ警部巡查数名ヲ率ヒ橋本村ニ出張シ八王子警察署ヨリハ警部巡查ヲ相原村ニ出張シ藤沢出張員ト橋本村ニ会シ敵ニ視察ヲ行ヒタル処集合ノ景跡ヲ頭サス高座郡相模原ニ数名集合ノ上帰村セシ由相聞へタリ

一 九月十日南多摩郡南方各村ノ負債者数名高座郡各村ノ負債者等ト通牒シ高座郡清兵衛新田村ニ凡百余名集合セリ警察官未タ出張セサル内ニ各何レモ退散帰村セリ

以来各地共巡查ノ配置所ヲ増設シ臨時数名ノ連行巡回ヲ施行シ非常警戒ヲ嚴ニシ各地集合ノ重立タル者ヲ就捕者二百十名ノ者ノ連犯ト認メ専ラ捜査ヲ嚴密ナラシメ以来各地集合ノ事跡地ヲ払フタルモノ、如シ然レトモ全く自悔断念セル者ニアラス時機ニ投シ勢力ヲ示シ義務ヲ免レントスルノ目的ヲ達セスンバ止マサルノ思念アリ營ニ警察ノ至敵ニ畏縮シ其ノ張弛ヲ窺ヒ密ニ計畫ヲ企謀セリ

一 九月廿一日曩ニ官署ニ喧鬧セル被告人二百十名内百七十一名ハ付和随行者ト認定シ在宅ヲ命シ一時釈放帰村セリ依テ其在村ノ景状ヲ視察スルニ何レモ数日ノ入檻ニ迷夢ヲ覺シ一身ヲ顧ミ家族ノ艱苦ヲ思ヒ漸ク自悔ノ念ヲ生シマタ警戒ノ至敵ヲ畏縮シ

再挙ノ気焰全ク絶ヘタルノ景状ナリ

一 同廿三日相模国津久井郡寸沢嵐村字道志組ニ於テ該村人民大凡六十名余集合シ借金返済ノ延期ヲ議スル為メ蝟集スルノ報アルヨリ鎮撫トシテ吉野分署長巡查齋藤良幸ハ巡查式名ヲ率ヒ該所ヘ出張ノ上何等ノ事ヨリ各大勢集合セシヤ尋問セシニ異口同音ニ借金延期ノコトヲ議セン為メ集合スル旨答ヘタリ依テ其不可ナルヲ敵論セシ所承服ノ体ニテ悉ク解散シタリ

一 同日原町田分署部内南多摩郡高ヶ坂村ヘ貧民蟻集スル旨探偵スルヨリ迅速原町田分署長巡查山本一智ハ巡查三名ヲ従ヒ該村ニ到リ内密探偵ヲ遂ケルニ果シテ同村十番地矢口甚左衛門居室ニテ数名集合シ借金延期ノコトヲ議スルヲ名トシテ不穩ノ挙動アル旨探知シ直ニ該家ニ至リ見ルニ数名集合アルヨリ家主外十三名ヲ原町田分署ヘ引致シ取調ノ上党与ヲ集メ不穩ノ挙動ヲナス証拠不十分ナルヨリ責誠シ帰村セシメ尚各巡查ヲシテ敵爾警戒ヲ施行シタリ

一 九月廿四日津久井郡名倉村ニ於テ日連村外二ヶ村ノ人民借金延期返済方ヲ議スル為メ凡八十名余又々集合スル様伝聞スルヨリ気脈線ヲシテ巡查齋藤良平ハ鎮撫ニ着手シ解散セシム

一 同三十日津久井郡ノ貧民再挙ヲ企ツ風聞頻リナルヨリ急速警

一部補代理巡查齋藤良平ハ巡查三名ヲ率ヒ進行牧野村ニ至リ見ルニ同村字篠原ト云フ山中ニ三十人余ノ困民等集合シ借金延期ノ歎願ヲセントスルヲ申唱フルヨリ説諭シ解散セシメタリ

一 同十月四日八日十日十五日廿一日ノ間津久井郡小淵村及寸沢嵐沢井千木良等ノ山中ニ出沒スル風聞屢々アリ吉野分署長巡查齋藤良平ヲシテ探偵セシメタル所果シテ風聞ノ如ク千木良村ノ山中ニ集合スルアリ出張巡查ハ何等ノ為メ集合スルヤノ理合ヲ尋タルニ前同断ナル負債償却ノ示談整ハサルニ付宥恕セシムル為メ集合セル旨答ヘタリ依テ敵戒説諭ヲ加ヘ各解散帰村セシメタリ

(注一) 根岸村は南多摩郡。(注二) 三鍵村は三ヶ木村。

(八)

○右八王子騷擾ニ付内務其他ヘノ上申書如左

警甲第七八号

不穩ノ集会ヲ解散セシメタル義ニ付上申

本月十日県下武相二州ノ内南多摩高座郡筑鎌倉四郡ニシテ十四ヶ村人民無慮五百余名ノモノ南多摩郡相原村字御殿峠ヘ屯集シタル其所以ハ八王子駅武蔵野銀行貯蓄銀行八王子銀行ニ対シ各負債弁